

「裸眼 3D 映像」 × 「CGI」 商品パッケージ 『SHIBUYA MEGA WALL CRANE』が 「デジタルサイネージアワード 2026」にて優秀賞を受賞！

株式会社京王エージェンシー（本社：東京都新宿区 代表取締役社長：中瀬真実、以下京王エージェンシー）は、株式会社 Hakuodo DY ONE（本社：東京都港区、代表取締役社長：北爪宏彰）およびクリエイティブ制作を行う株式会社 ARROVA（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：河合佑介）と連携し、制作した『SHIBUYA MEGA WALL CRANE』が「デジタルサイネージアワード 2026」において、優秀賞を受賞いたしましたのでお知らせいたします。

1. 受賞概要

- (1) 受賞内容 : デジタルサイネージアワード 2026 優秀賞
- (2) 作品名 : SHIBUYA MEGA WALL CRANE
- (3) 出展企業名：株式会社京王エージェンシー
株式会社 Hakuodo DY ONE
株式会社 ARROVA

※受賞作品は、[デジタルサイネージアワード公式サイト](#)にてご覧いただけます。

(4) アワード審査会コメント

- ・視線を広告へ向けるための、大変興味深い取り組みである。メッセージを短時間で確実に伝えるための工夫も面白かった。
- ・これまでの 3DOOH よりもスマホ・ドリブンで拡散の仕掛けがなされている。
- ・3D LED の手法 + SNS の組合せが面白い。
- ・風景自体をエンターテインメントへと昇華させた秀作。視線が届きにくいという DOOH の課題を、枠を超える UFO キャッチャーという強烈なフックで解決した。これを「新しい広告販売パッケージ」として事業化し、媒体価値を継続進化させるビジネスモデルが抜群に優れている。
- ・FOOH がコミュニケーションとして、広告主、生活者それぞれに受け入れられていくものが注目したい。



2. デジタルサイネージアワードについて

一般社団法人デジタルサイネージコンソーシアムが主催し、公募されたデジタルサイネージ作品の中から優秀な作品を選出・表彰することで、デジタルサイネージ市場の活性化を目指すものです。6月10日(水)の審査発表会にてグランプリ1作品、準グランプリ1作品と優秀作品10作品が選出されました。



3. 作品（『SHIBUYA MEGA WALL CRANE』）について

本作品は、広告主の商品そのものを「通行人が思わず写真や動画に撮りたくなる主役」に変える体験型エンターテインメント広告です。

- (1) 展開の舞台：文化村通り入口地下鉄出口すぐの場所に位置する、渋谷最大級（縦 13m×横 6m、78 m²）の縦型ビジョン「渋谷メガウォール」。
- (2) 技術と演出の融合：無音の広告枠という課題を解決するため、景品が街へ投げ落とされるような「裸眼 3D 映像」を放映。さらに、クレーンがビジョンの枠を超えて街へ飛来するような「CGI 映像※」を組み合わせることで、シームレスな視覚体験を設計しました。※CGI 映像=実写風景に CG を合成したフェイク OOH 映像。
- (3) 本作品の特長：最大の特長は、広告主の商品そのものを“撮りたくなる主役”に変えられる点です。情報を伝えるだけの従来の広告から脱却し、「巨大クレーンゲーム」に見立てた演出によって通行人の視線を留めて最後まで惹きつける構造を確立しました。これにより、街頭での高い注目を集めるだけでなく、SNS 上での自発的な拡散（二次拡散）を促す仕組みを実現しています。

Contact information

株式会社 京王エージェンシー

OOH 事業本部 DOOH 推進チーム広報担当

(担当者：志賀・佐藤・村井)

TEL：03-3348-8610 このニュースは広告業界関連新聞・雑誌各社に配布しております。